

其ノ内容ハ、(イ)勞働組合ヲ、政治闘争ノ動員團体視スルコトニ反對スル意味ニ於テ共産主義及ファシズムニ反対シ、(ロ)勞働運動ノ主義方針ハ單ニ机上ノ公式乃至ハ觀念的理論ヨリ出發セル階級闘争一本槍ニヨラズシテ、團體協約又ハ共濟保險制度等ノ建設的乃至ハ現實的ノ方法ヲモ兼用スルコトヲ立前トスル點ニ於テサンジカリズム及無政府主義ニ反対スル事ガ發表サル、ヤ、眞正又ハ擬似ノ右記主義陶酔者ハ感情的ニ又無批判的ニ本俱樂部ノ創立ニ反対シタ。否寧ロ本俱樂部ニ反対スルコトニヨツテ自己ノ社會的存在價值ヲ認識セシメントスルノ觀ガアツタ。日本共產黨、全國勞働組合協議會ハ勿論、日本共產黨ヲ否認シ共產主義的運動ニ反対セザルモノハ非階級的ナルカノ如ク治々トシテ俱樂部排撃ヲ聲明シタ。ソノ著明ナル實例ハ全國勞働ノ關東側諸團體ノ分裂ニシテ、分裂後ノ團體名ガ俱樂部排撃同盟

デアリ、ソノ活動對象ハ俱樂部排撃以外ニ何者モ無カツタコトガ雄辯ニ之ヲ物語ツテキル。

2 俱樂部ハカクノ如ク一部ノ左翼小數派ノ賑力ナル反対伴奏裡ニ

生レタノデアルガ、其後ノ活動ニハ目覺マシキモノガアル。

即チ組織ノ方面ニ於テハ同年十一月十八日開催ノ第二回懇談會ニ於テ全國港灣從業員組合聯盟ヲ、十二月十五日開催ノ第三回懇談會ニ於テ日本製鐵勞働組合聯合會ノ新加盟ヲ承認シ茲ニ於テ本俱樂部ノ陣容ハ我國全組織勞働者三十五萬人ノ七割四分二十六萬人ヲ包容スル事トナツタ。

一方事業方面ニ於テハ八月二十七日開催サレタル第一回懇談會ニ於テ自主的勞働組合法、團體協約法ノ調査立案、失業問題、勞働時間、最低賃銀等根本的勞働問題解決對策ヲ研究調査スルコトヲ決定シ、夫レ々々調査主査ヲ任命シ、ソノ中勞働組合、團體協約ノ二法案ヲ立案シ、政府ニ對スル其ノ趣旨貫徹ニ關ス